

《日本の明日を寺社と共に。》

# 未来考創

寺社をテーマにした観光について  
未来志向で取り組む人を訪ね、  
日本の未来を共に考え、創造します。



福嶋教輝／昭和33年メキシコ生まれ。在イタリア日本国大使館公使、在スペイン日本国大使館公使、在サンパウロ日本国総領事館総領事、在アルゼンチン日本国大使館特命全権大使などを歴任。現外務省特命全権大使(2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会担当)

第3回

オリンピックと社寺観光

公益財団法人  
東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会  
ふくしまのりてる  
福嶋教輝 (東京2020国際関係担当大使)

東京オリンピック・パラリンピックは日本の伝統や文化を直接世界へ発信するまたとない機会となる。このチャンスを活かしてほしい。

**廣瀬** 外国人はひとつじゃないというお話がありますが、中南米の方々の日本への関心はどうでしょうか。

**福嶋** 私は中南米を中心に、ヨーロッパはスペインとイタリアに勤務しました。それらの国々、特に中南米の人々には、日本の十分なイメージが以前はありませんでした。ところがこの20年ほどでガラリと変わりました。例えば20数年前のアルゼンチンでは4軒ほどだった現地の日本料理店が、今では350店近くあります。また、日系の方が中南米には200数十万人いて、以前はお祭りをやっても日系の方々しか参加しませんでした。しかし今は約9割が現地の方、しかも一緒に盆踊りを踊っています。ちなみに訪日客数は中南米でも、例えばアルゼンチンではこの4年で3倍の2・4万人になりました。世界的な訪日客の増加には、インターネットやSNSが大いに影響しています。情報が簡単に手に入るように

なり、そこで見た景色を見てみたい、実際にその文化を体験したいと思う人が飛躍的に増えたのです。だから

こそ、日本の美しさをどうアピールするのか、文化財を有している方々にぜひ考えていただきたいと思っています。訪日外国人は、私たち日本人も知らない日本をSNSで知り、求めてやってきます。アジアの方々が理解している宗教的、文化的な日本とは違う新たな魅力が、各々の文化圏で日々見つけ出されているのです。

**廣瀬** 大使として来年オリンピックを迎えるなかで、社寺に対する思いを教えてください。

**福嶋** 国際関係担当大使としての私の主な仕事は、国家元首などが開会式や関連行事にスムーズに参加できること、また、外交上の問題なく平和の祭典として大会を終わらせることです。東京五輪・パラリンピックは、スポーツを通して世界中の人々との交流が生まれ、また、パラリン

ピックを通じて共生の社会が確実に広まっていく、将来の日本社会そのものを変える歴史的な行事だと考えています。期間中は、あらゆる社会にとつてさまざまな起爆的なチャンスとなります。開催期間は45日にもおよび、東京だけでなく関東、東北、北海道などでも開催されます。社寺にとつても、深い哲学や思想ではなくとも、日本の伝統や文化を知りたいと思う人に直接発信し、体験してもらえる期間となるのではないのでしょうか。

期間中には社寺が開催するイベントなどもあると承知しています。しかし、まだまだあまり知られていない。発信では各々の文化圏のニーズに合わせた手法も重要です。そこに例えば宿坊という素晴らしい施設を紹介できれば、通り一辺倒な観光ではない日本を知ることができる。訪日外国人たちが自分に合うプログラムや精進料理など、本物の文化伝統に宿坊で触れることができれば、こんなに素晴らしいことはないと思います。



聞き手／廣瀬崇之  
一般社団法人全日本  
社寺観光連盟理事。元  
内閣府特命担当大臣秘  
書官、文化観光リサー  
株式会社代表